

◎「ウクライナ支援」 News Letter (3)

2022年5月21日
ミッション・宣教の声
黒田 禎一郎

愛する皆様

2月24日、ロシア軍侵攻によって始まった悲劇は長期戦となり、欧州のキリスト教会と宣教団体は「マラソン支援」に入りました。この約3か月間、避難民は自由がある国へ逃れ込み、今日も、この時も、避難民の波は止まることはありません。コロナ禍以前は欧州に約400万人以上の「中東難民」が入り、さらに今回「ルーマニア避難民」が加わり、欧州は大きく変化してきました。

人が出来ることには限りがありますが、「隣人愛」は実践可能です。主の恵みの内で、私たちはこれまで2回にわたり現地へ愛の献金(約110万円)を届けました。それはドイツ(Missionshaus Friedensbote)ルートとルーマニア(Ruth Refugee Center)を通してです。両宣教団体はかつての共産主義時代、苦汁を経験した聖徒たちでつくられました。



<子どもと非難したビクトリア姉妹>

現地や避難国に送られた救援物資と支援金は、主に現地の牧師(or 牧会責任者)によって配分されています。それは重労働の仕事ですが、彼らは使命感に立ち睡眠を削って愛の奉仕を継続中です。どうぞ、お祈りください。中でもニコライ・コロイス兄弟(55歳)はウクライナ・サルニー出身で、2019年に「癌」に犯されました。彼は余命宣告を受け快復の希望はないと診断され、病院から自宅に戻されました。すると「癌」は奇跡的に癒されました。そこで彼は神からの



贈物を神にお捧げする決心をし、現在戦闘が最も激しいウクライナ東部へ36回(5月初旬)入り、救援物資を運んでいます。毎回、2度と戻れないかも知れないと覚悟し、今日も戦闘地へ物資を届けています。どうぞ、お祈りください。

<N・コロイス兄弟>

※この News Letter は不定期発行です。メールをお持ちの方で差し支えない方はお知らせください。皆様の祈りとご支援に感謝します。